

どんぐりころころだまり NO.7

2012. 12. 26発行 福島恭子・大森志穂

2012年(平成24年)も、あと数えるほどです。この1年も、どんぐりころころでは、子どもたちが「大きなけが」をすることもなく過ごせたことが、何よりたうたと思います。そして、散歩の途中、地域の方に声をかけられることも増え、少しずつ私たちの活動が受け入れていただいていると感じることができ、幸せに思います。

今年の成果を来年につなげ、よりよい教育活動となるよう、今後も努力していきたいと思ひます。

どんぐり



10月になると、通称「たけのこ公園(下保谷第三公園)」そばのお宅の大きな榎の木でどんぐりが落ち始め、散歩の毎に拾わせてもらっていました。♪どんぐりころころどんぶりこ...と、歌も自然に出てきます。

11月になると、落ちているどんぐりの数は多くなり、拾っている最中にも、ぽとんと落ちてくるほど。11月も12月も相変わらず、どんぐりを拾いました。

- 最初は、拾う時は、上着のポケットに入れていく。
- どんぐりの帽子を集める。白白白白 集めた帽子を並べて、「どんぐりの帽子やさん」が始まりました。(拾ったどんぐりの大きさに合うものを選ぶのがです。)

そのうち、

- 拾う時は、保育者にどんぐりを渡す。拾うだけじゃ、どんぐりはいらぬようにして。
- 「どんぐりごはんつくろっか!」と言って、どんぐりを集める。公園に着くと、砂場で料理開始!



- 拾ったどんぐりの割れ目から殻をむく。指先をつかって、少しずつむいていきます。かたまりの集中力です。
- 大谷石の穴に拾ったどんぐりを入れる。ちようどいい大きさの穴を探しなから...
- 拾ったどんぐりや石、木の葉、枝と並べて形を作る。



このように、どんぐりを拾うと言っても、様子が様々でした。一人一人の思いや興味が遊ぶ姿に見てとれました。友達のしていることのまねもよくしていましたね。3ヶ月の間に、小さくて緑色の赤ちゃんどんぐりから、踏ますには通れないほど大きなどんぐりまで、存分にどんぐりで遊ぶことができました。

遊んでいる中、集中力、想像力、創造力、自然の見つけ方、好奇心、判断力、しゃがんでいられる脚力、手先の器用さ等、育っています。

豊かなイメージ

砂場では、^{カップ}に^砂を入れて、「フリン」「ごはん」等と言って、保育者にふるまい、「どろぞろ」「ごちそうま」とセリリすることと子どもたちは喜んでいるように思ひます。

ある日、3オウAちゃんがこんなことを始めました。「何名様ですか?」「なににしますか?」「こっちです。」...と、まるでファミリーレストランです。

そんなわけで、この頃は、ごちそうかできると、わざわざ砂場から離れた所へ連れていかれて(案内されて)、ごちそうしてもらう。そして、そこへ他の子が、「4名様」とか「3名様」と言いながら出前にくるといふ遊びを楽しんでいます。



たけのこ公園の犬型の遊具(通称「ワンワン」)は、以前は、ただ乗って揺られて喜んでいましたが、今は、電車になつたり、車になつたりいろいろです。友達と先頭の席(運転手さん)を取り合うことがありますし、一人で乗るのでなく、友達を呼んだり待たせたりして一緒に楽しもうとする姿も見られます。そして、Bちゃんは、この「ワンワン」の点検が大好きです。木の枝を持って、まるでドライバーでねじを回しているのかな?と思わせる仕草です。「ワンワン」に乗ると、「スピードが出ないです。」とBちゃんに点検してもらって楽しんでいる子もいますし、Bちゃんをまねして点検を楽しむ子もいます。